

山北町立やまきたこども園

研究テーマ：園を取り巻く環境の中で自己発揮する力を育む

1 実践の目的

昨年度から「0歳から15歳までの一貫教育・保育」を推進し、めざすこども像を共有して保育・教育に取り組んでいる。

園の周りにある「自然」「公共施設」「商店街」そこにいる「人」などの様々な環境の中で、自分を表現していき、豊かな心と社会性を育てていこうと考えた。

そこで、本年度は、「異年齢」「地域」「家庭」をキーワードに子どもたちの育ちを支える取り組みについて探ることとした。

2 実践の内容

(1) 異年齢のかかわり

昨年の取り組みを受け、今年度もクラスの子の行き来が自然にできるように、改めて職員間で意識を深めていった。散歩に出かけたり、新しい取り組みとして一緒に給食を食べたりしてかかわる機会を作ったことで、「異年齢でのかかわり」への意識が高まった。



＜年長児の組立て体操の真似をする年中児＞

(2) 地域との連携

昨年度作成した「散歩マップ」を活用しながら、年間通して乳児でも行ける場所を

選び散歩に出かけた。手を振ったり、挨拶をしたりするなかで地域の人々の顔を知る機会となり、地域の中に少しずつとけ込んでいる様子がうかがえる。散歩に行く中での、新しい施設や場所の発見なども楽しんでいる。



＜商店街の方との交流＞

(3) 家庭との連携

子どもたちの姿や活動をドキュメンテーションとして「見える化」したことは、保護者が園での活動を知る機会の一つとなった。また、園と家庭での認識のずれを埋めるために、大きな行事が終わった後に感想等のアンケートを行った。どんなことが楽しかったのか、こういう活動をやりたいなど保護者からの様々な意見は、新しい活動を生み出す視点ともなった。



＜行事や活動の様子を動画で紹介＞

(4) 0歳から15歳までの一貫教育・保育異校種間の職員同士が顔の見える関係になったことで、自然なかかわりを気軽にもてるようになってきた。また、今年度から公共交通機関を利用できることになった。そこで、電車に乗って山北高校に遊びに行ったり、小学校の校庭で遊んだりする活動を行ったことにより、中学校や高校が身近な存在になりつつある。例年行っている小学校との交流では、5年生と一緒に校内探検をしてくれたことで、来年度につながる貴重な交流となった。



＜ペアになり小学生が学校を紹介＞

3 実践の成果

(1) 異年齢のかかわり

自然な交流が進み、年長児からは「〇〇ちゃん」等名前を呼んでかかわる姿や困ったときに助けてあげる姿が見られた。

職員間も異年齢のかかわりの意識がもてたことで、日頃の情報交換も増え、職員間の雰囲気も以前よりも良くなった。

(2) 地域との連携

今までの出会いを大切にしてきたことで、保護者や地域の方から声がかかるようになった。豆腐工場見学や保護者主導のわらべうた遊び等、地域の方との繋がりや広がりを感じることができた。交流の進め方も見直し、以前からお世話になっている老人会の園芸部の方とのかかわりでは、名札をつけたり少人数のチームを作ったりす

ることで、子どもたちが親しみをもってかかわる姿が見られた。

(3) 家庭との連携

文章だけでは伝わりづらい部分を、映像で流すことによりその時の思いを共有しやすくなり、親子間や家庭での会話の糸口になっている。

アンケートの結果についても今後の行事等の在り方を考えるうえで参考となった。家庭との連携を大切にしながら、よりよい園行事の形をつくりあげていきたい。

(4) 0歳から15歳までの一貫教育・保育

今年度は昨年度の交流を土台に、更に交流を深めることができた。

また形式的なかかわりにならないように事前に小学校教諭とねらいや当日の流れを話し合うことで相互理解もできた。

4 今後の展開

- 今年度の活動を継続しながら、より良い活動ができるよう、職員間での話し合いを密にとっていく。
- どのような事をお願いしたいのか、早めに計画をし、良い方法が見つけれられるようにしていく。
- 行事だけの捉えではなく、普段の生活から自然な交流ができるようにしていきたい。
- ICT化を促進していく中で、取り組みやすい内容を考えていく。



＜クリスマス会は園庭でみんなで給食＞